

# 令和7年度 学校評価 中央小・中学校パワーアッププラン

## 1 目標・方針

<p>中期的な学校運営の 目標・方針</p>	<p>よりよい自分をめざし、ともに成長する児童の育成 ～ 自律 × 挑戦 × つながり力 ～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自律する子：自分で考え、行動できる子 学びを楽しめる子</li> <li>・挑戦する子：失敗を恐れず、挑戦する子 最後まであきらめずがんばる子</li> <li>・つながれる子：互いの良さを認め合い、関わりの中で学べる子 他者への感謝の心が持てる子</li> </ul>
<p>本年度の重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもに寄り添い、決して見捨てない学校</li> <li>・「自分大好き、学校大好き、地域大好き」と言える児童の増加</li> <li>・不登校の未然防止と学校復帰に向けた取り組み、いじめ解消率 100%</li> <li>○家庭や地域と連携し、信頼される学校</li> <li>・HP やメールによる情報発信と学校運営協議会の活用</li> <li>○指導力を高め、協働できる職員室</li> <li>・「主体的」「協働的」「組織的」を大切にし、働く喜びを感じられる職員組織</li> <li>・ワークライフバランスを大切にする意識改革</li> </ul>

## 2 自己評価（達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善）

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
<p>学校運営</p>	<p>開かれた 学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。</li> <li>・コミュニティ・スクールや地域人材の活用等、地域と協力しながら教育活動を行っている。</li> </ul>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>	<p>HP やお知らせメール等を活用し、行事や普段の学習の様子などが伝わるように写真やコメントを入れて情報発信し、教職員は9割が「情報発信できた」と感じていた。しかし、保護者は昨年度に引き続き 30%以上が「情報発信できていない」と感じているため、より多くの情報を望んでいることがうかがえる。HP の更新日を決め、どの学年も定期的にHP 更新を行ったり、写真を多く掲載したりすることで、保護者により情報を届けられるようにしていく。また、毎月の学校へ行こう DAY や参観日に保護者・地域の方が来校できるように開かれた学校づくりを今後も行っていく。</p> <p>地域との協力しながらの教育活動については、今年度、地域の方や地域の施設の方にゲストティーチャーとして来ていただいて、学ぶ機会が多くあった。6年生では、卒業プロジェクトの一環として地域の行事に児童が考えて参加する活動も企画した。今後も、地域の方と連携しながら教育活動を行っていききたい。</p>

	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人・もの・時間」を大切にし、家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。</li> </ul>	C	<p>今年度も、一年を通して毎月の月目標を「人・もの・時間」から一つを生活目標にして取り組むことで、学校生活をより良くしようとする意識を持つことができた。物や時間については、行事等に合わせて行うのは効果的だった。人については、友だちの良い所見つけをするなど、相手を大切に意識は向上した。しかし、名前の呼び方や言葉遣いについては、人権意識が低いように感じる。引き続き、名前の呼び方等も啓発していきたい。挨拶も昨年に引き続き取り組んだ。しかし、「自分から進んで挨拶をしている」と感じている児童が、昨年度に比べ減少傾向であった。挨拶はコミュニケーションの第一歩として大切な力である。教職員が指導方法の工夫・改善をするとともに、家庭・地域と連携しながら、気持ちの良い挨拶が、自分から進んでできる子どもの育成に取り組んでいきたい。</p>
教育課程	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考え粘り強く学びに向かう姿に向けて、単元を通じた授業改善に取り組む。</li> <li>・児童に応じた家庭学習やスキルタイムを実施し、基礎学力の定着を図る。</li> </ul>	B	<p>丹波市学習定着度調査の結果では、昨年よりも伸びが見られた学年や教科がある一方で、多くの学年で課題が残った。家庭学習の定着ができていない学年もあり、基礎学力の定着に課題がある。基礎的な学習や過学年の内容の学び直しに取り組むなど、各学年の実態に応じた学習を展開できるようにしたい。また、個々の学力実態を把握し、個に応じた手だてを工夫するとともに、授業改善に取り組む必要がある。</p> <p>今年度は、道徳教育研究推進事業の指定を受け、道徳科を通して対話を重視した授業改善に取り組んできた。引き続き、来年度も道徳科の授業をとおして対話を大切にしたい授業改善を行い、すべての児童が自ら考え粘り強く学びに向かえるよう取り組んでいく。</p>
課題教育	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の取り組みや家庭との連携を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を育むように努める。</li> </ul>	B	<p>自尊感情については、「自分にはよいところがある」と感じている児童は全体的に多く、昨年度に比べ 11%増えている。保護者の設問に関しては、児童が「自信をもって前向きに取り組んでいる」と感じている保護者が8割以上である。児童の伸びや頑張りを認める個々への言葉掛けを意識して取り組んできた成果である。人権意識については、児童の9割近くが相手の気持ちを考えた言動ができていると回答するなど高い評価を維持している。一方、昨年度に続き1割近い児童は、否定的な回答をしている。この点を踏まえ、相手の立場や気持ちを考えた言葉遣いや行動について学び、実践するソーシャルスキルトレーニングを、より一層進めていきたい。</p>

### 3 学校関係者評価

達成状況はメリハリをつけて、今年度どうだったかが分かるようにすることが大事である。「開かれた学校づくり」の取組では、地域の行事に子どもたちが参加したり、学校の授業に地域から多くの講師が話をしたりしていることが、高く評価できる。また、6年生が丹波ルロットで、出店の計画を立て、準備していることが、「考えて動く」姿へとつながっている。反対に、人権的な取組では、実際に相手に嫌なことをしたり、名前の呼び方も嫌がる呼び名で読んだりしていることは、取組がまだまだ足りていないということである。中央小が人権を大事にしていることはよく分かっているが、同時に児童の育ちを分析し、具体的な方策を立て、来年度につなげていってほしい。

オープンスクールで気になったことは「ノートをとることに集中しすぎていて、授業をちゃんと聞いているのか」「あくびをする児童が多く、家庭での生活が気になった」など、意見が出た。今後も家庭や地域と連携しながら、子どもたちの成長を支えていけるようにしていきたいとの協力的なご意見が出た。

### 4 次年度の改善の方向性

今年度の取組を振り返ると、人権教育や学習指導の面では、なお多くの課題が見られる。しかしながら、授業に向かう態度や集会での聞く姿勢など、児童の成長が感じられる場面も多く、1年間の取組の成果も確実に表れている。

来年度は、まず児童の心理的安全性を高めることを大切に、教師と児童、また児童同士の信頼関係の構築を一層進めていく。また、人権に関する取組については、学校だけでなく地域や保護者とも連携しながら、具体的で分かりやすい実践を積み重ねていく。

さらに、道徳教育の研究を推進し授業改善を図るとともに、児童が「分かった」「できた」と実感できる授業づくりに努めることで、学力の定着と主体的に学ぶ児童の育成につなげていきたい。

令和8年3月12日

学校名 丹波市立中央小学校

校長名 黒田 睦美